

さつきやま魂

崎山中学校だより
12月18日 第15号
文責 校長 山下



毎年、11月から人権週間（12月4日～10日）にかけて、各学年に課題を設定して人権学習を行っています。今年度は、学習の一環として、12月2日に諫早市こども城の野中邦浩様をお招きし、『「自信」って何だ?』というテーマでワークショップを行いました。3時間の活動を通して、子どもたちはいろいろなことを学びました。いくつかのワードを紹介します。

- ・「失敗」を楽しむ
- ・「できない」↓「今、できない」
- ・失敗しても君が好き
- ・「これしかできない」↓「これならできる」
- ・あなたがそこにいるだけで価値がある

ワークショップ後の子どもたちの感想を見ると、「チャレンジすることが大切だと思った。」「今はできなくてもいつか必ずできるという自信がついた。」など、失敗を恐れず、自信をもって挑戦しようという気持ちになった生徒がとて多く、これからの生活が楽しみにになりました。

4日には、人権集会を行いました。人権学習実行委員長の山内君を中心とした実行委員による「あなたももし奴隷だったら」の読み聞かせ。各学年がそれぞれのテーマ（1年：身近な差別、2年：同和問題、3年：現代社会の差別）に沿って行った人権学習の発表。最後に崎山中人権宣言2020を確認しました。



＜ワークショップの様子＞

人権について考えました



＜1年生の発表＞



＜2年生の発表＞



＜3年生の発表＞

- 一 いじめや差別をせず、誰にでも優しく平等にします
- 一 一人ひとりの個性を尊重します
- 一 友愛の心で、みんなの笑顔あふれる明るく楽しい学校にします

崎山小・中学校支援会議から



コロナ禍のため、今年度第1回目となりましたが、11月19日に学校支援会議を行いました。今年度から、崎山小・中学校支援会議として、小・中合同のメンバーで行っています。これは、将来のコミュニティ・スクール化を意識して組織しました。コミュニティ・スクールとは、地域の願いを積極的に学校教育に取り入れながら、地域と共にある学校づくりを目指すものです。詳しくは、今後の学校だより等で説明していきます。

支援会議では、子どもたちのこと、崎山地区の将来のことを思っただけの貴重な意見が多く聞かれました。今後の学校経営に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

- ・地域の人たちと共に汗を流して働くことで、自分も地域に貢献しているという自活力や自負心をもってほしい。
- ・小中が同じ教育目標を設定していることがすばらしい。
- ・子どもたちが年々活発になってきている。
- ・教育週間では、子どもの発表する数が多かったが、発表する声は小さかった。
- ・地域での挨拶の中に、「一言付け加える生徒がいる。以前にはなかったこと。」
- ・言葉遣いが丁寧になってきている。
- ・間違った発表をしても、他の児童がその子を笑ったりしないところがすばらしい。
- ・コロナ禍で百人一首大会の開催は難しいが、和歌の募集はぜひお願いしたい。
- ・下校の時、困っている子どもを助ける姿が見られた。
- ・高校生が、通学途中に大きな声で挨拶してくれる。

農地保全作業への御協力ありがとうございました

12月13日に農地保全作業を行いました。今年も多くの保護者の皆様に御協力をいただきました。かなり厳しい作業内容でしたが、「我が子のため」という思いで、最後まで元気に泥上げをする保護者の皆様に感動しました。お忙しい中、本当にありがとうございました。



「書き損じ等はがき」の寄付について（お願い）

県身体障害者福祉協会連合会及び県難病連絡協議会より、「書き損じ等不要はがき」の寄付依頼がありました。不要はがきを寄付していただくことで、新しいはがきに交換、または換金して両団体の福祉事業に役立てることが目的です。趣旨に賛同していただける方は、生徒を通じて、「書き損じ等不要はがき」を学校に持ってきていただければと思います。新年、1月末日を最終締切とします。御協力よろしく申し上げます。

「数ふればわが身につもる年月を送り迎ふと何いそぐらん」
平安時代中期の和歌です。
今も昔も年末はあわただしく過ごしていた様子がうかがえます。